



くすのき



No. 76

R元年12月発行

◆講演会「子ども・若者の自立支援のために」◆

11月25日(月)、三谷北通にある青少年自立援助センター「北斗寮」で理事長をされている鈴木法政氏をお迎えして、市民会館で「ひきこもりの若者の支援」と題して講演会を行いました。

北斗寮は平成8年の設立以来、ひきこもり状態の若者の社会的自立を目指して支援しています。スタッフ、寮生が泊まり込みで、食事作りや掃除などの日常生活を共に送っています。家族のような関係性を築きながら、職業訓練、アルバイト、イベントの準備を進め、



特定非営利活動法人
青少年自立援助センター―北斗寮
理事長 鈴木法政氏

リアルタイムで寮生をサポートし、自立へと導いています。



鈴木氏の話の一部抜粋します。ひきこもり状態の若者は、絶海の孤島で孤立している状態。だから「何とかなるよ」のような漠然とした励ましではなく、具体的な情報提供をすること、「ひきこもりの初めのころはいつでも出られると思っていたけれど、3年経ったら、あれ、出られない」といった当事者の声。当事者の家族にはできることと、できないことがある。基本的なマナーは家族が教えることができるが、若者の自立に必要な「社会性」は他者と交わることで育つものなので、家族だけでは限界がある。信頼できる第三者の力が有効となる。また、見守るだけではひきこもり状態は解消しない。解消のきっかけ作りとしては訪問支援が効果的である。訪問は友達になるためではなくて、情報提供をすることが目的。と、今までの経験に基づいた具体的なお話をいただきました。

続いて、現役の寮生のお話を、スタッフの方がインタビューする形で聞きました。仕事は真面目、成績優秀なのに、ひきこもりに至った彼のことを、スタッフは、正義感が強すぎて、必要以上に背負い込み、努力の方向が少しずれて空回りになってしまうことが生きづらさとなっていると分析していました。勇気を持って語ってくれた彼の今後を期待したいです。

続いて、寮生のアルバイト先や就職先として受け入れている会社の社長さんのお話です。

北斗寮からアルバイトの子を受け入れるとき、コミュニケーションとれるかな、暴れないかな、職場放棄したりしないかなと心配だったが、全く問題なかった。むしろ指示をしなくても動いてくれた。ただ、芯が強いというか、反応が速いというか、すぐに「できません」と言ってしまう癖がある。だけど、詳しく説明すると、「それならできます。」とってくれた。企業は人手不足。このような支援機関と連携できることはありがたい。



多くの方からお話しいただきました。皆さんありがとうございます。

◆十二月二十日～三十日は
青少年の非行 被害防止に取り組み県民運動(冬期)実施期間です◆

1月の補導予定

大塚班 17日(金) 18:00 大塚公民館
三谷班 17日(金) 18:00 三谷公民館
蒲郡班 10日(金) 16:30 勤労福祉会館
中部班 10日(金) 18:00 中央小学校
塩津班 17日(金) 18:00 塩津公民館
形原班 17日(金) 19:00 形原中(研修会)
西浦班 10日(金) 17:20 西浦駅

よろしくお願ひします



◆編集後記◆

来年3月で地域補導員の皆さんの2年任期が満了することに伴い、地区の総代さんのところへ、4月以降の補導員の推薦書類を送付しています。補導員の皆様や班長さんへ総代さんから連絡が入るかと思ひます。引き続きお引き受けくださる方、これからも青少年の健全育成へのご協力をよろしくお願ひします。3月で退任となる方、今まで本当にありがとうございます。